

シラバス（講義概要）

芸術工学基幹科目

芸術工学特論 A

前期・必修・2単位

Advanced Study of Arts and Design A

担当教員 大内克哉、カスパーシュワーベ、長野真紀、山崎均、
佐藤優、齊木崇人、黄國賓、榮元正博、尹智博

対面・遠隔の別

対面授業と同時に、遠隔（リアルタイム）での配信を行う。

遠隔の場合の主なツール

teams, forms

到達目標（目的含む）

授業の目的

芸術工学の基幹科目として、人類による自然界に対する考察を通して生み出されたかたちや空間を理解し、現代の科学技術と芸術文化を融合させたアート・デザイン・メディアの多様な表現ができるようになる。特に芸術工学特論Aでは、様々なワークショップを通じて芸術工学の方法論を身につける。

到達目標

- ・黄金比やテセレーションについて説明し、デザインに応用できるようになる。
- ・竹中大工道具館での研修を通して、日本の伝統的な建築技術が理解できる。
- ・プレゼンテーションを通じて、得られた知識を実際に応用する。

授業の概要

自然界に潜む点、線、面、立体によって生み出される幾何学的構造の法則や、かたちや空間構成の魅力や①理論的に分析考察し、②ワークショップによりかたちや空間の製作技法やプロセスを体験し、それらの成果を生かした③プレゼンテーションをおこなう。履修のまとめとして、④未来社会が求める新しいかたちの文化生態的価値を仮説・考究する。

授業計画

- 1：オリエンテーション（齊木・佐藤）
- 2：芸術工学とは（齊木・佐藤）
- 3：テセレーション①（谷岡）
- 4：テセレーション②（谷岡）
- 5：リズム・カオス・同期①（大内、尹）
- 6：リズム・カオス・同期②（大内、尹）
- 5：テセレーション①（谷岡、シュワーベ）
- 6：テセレーション②（谷岡、シュワーベ）
- 7：学外ミュージアム体験（竹中大工道具館）①（全員）
- 8：学外ミュージアム体験（竹中大工道具館）②（全員）
- 9：学外ミュージアム体験（竹中大工道具館）③プレゼンテーション（全員）
- 10：「陰」「陽」のかたちとデザイン（黄）
- 11：時間のかたち（榮元）
- 12：かたちと黄金比①（シュワーベ）
- 13：かたちと黄金比②（シュワーベ）
- 14：プレゼンテーション①
- 15：プレゼンテーション②

授業時間外学習

図書館、ミュージアム等を活用して講義内容に関係するテーマに関する文献をもとに理解を深めること

評価方法

毎回の授業コメントシート及び、最終日に行う発表内容と提出作品により評価する。

使用テキスト

「ジオメトリック・アート」、講義ごとに資料配布

芸術工学特論 B

後期・必修・2単位

Advanced Study of Arts and Design B

担当教員 山崎均、カスパーシュワーベ、長野真紀、佐藤優、藤田治彦、金箱淳一、齊木崇人、大内克哉、西村幸夫、
袁豊

対面・遠隔の別

対面授業と同時に遠隔（リアルタイム）での配信

遠隔の場合の主なツール

teams, forms

到達目標（目的含む）

授業の目的

芸術工学の基幹科目として、アート・デザイン・メディア、自然と環境、都市と社会、地域とコミュニティの歴史的展開と文化の諸相を理解し、現代の科学技術と芸術文化の創発と融合、アートとデザインの多様な表現と創成、ミュージアムの使命、芸術工学が社会に果たす文化生態的価値と意義について様々な分析と考察ができるようになる。特に芸術工学特論Bでは、プレゼンテーションと討議への参加を通じて、芸術工学の視座を自らの研究テーマに活かす態度を身につける。

到達目標

- ・芸術工学の研究の視座と方法論を自らの研究テーマに適用し、新しい研究テーマや発想をひき出し、多面的に論じることができる。
- ・様々な研究領域のプレゼンテーションを分析し、積極的に討議に参画することができる。

授業の概要

本講義では、都市と自然、地域と環境、アート・デザイン・メディア、ミュージアムなどの広範なテーマを取り上げ、各分野における専門の担当教員により①理論的に分析考察し、アートとデザイン、都市文化と地域コミュニティ、テクノロジーと人間と社会との関わりについて議論する。それぞれのテーマに対しては②積極的な意見交換と討議を通じ、より深い理解を目指す。③履修のまとめとして、履修者は特に関心を持った授業内容に対して、芸術工学と本人の解釈をふまえたプレゼンテーションを行うことにより、研究に対する新しい知見を得るとともに、④未来社会が求める新しい文化生態的価値を仮説・考究する。

授業計画

- 1 全体オリエンテーション①（齊木・佐藤）
- 2 全体オリエンテーション②（齊木・佐藤）
- 3 アート&テクノロジー①（金箱・佐藤）
- 4 アート&テクノロジー②（金箱・佐藤）
- 5 デザインと社会文化①（森山・藤田）
- 6 デザインと社会文化②（森山・藤田）
- 7 世界のミュージアム①（袁・山崎）
- 8 世界のミュージアム②（袁・山崎）
- 9 t 地域の文化とコミュニティ①（長野・全員）
- 10 地域の文化とコミュニティ②（長野・全員）
- 11 都市と歴史と文化①（西村・齊木）
- 12 都市と歴史と文化②（西村・齊木）
- 13 プレゼンテーション&討議①（全員）
- 14 プレゼンテーション&討議②（全員）
- 15 プレゼンテーション&討議③総評・まとめ（全員）

授業時間外学習

図書館、ミュージアム等を活用して講義内容に関係するテーマに関する文献をもとに理解を深めること

評価方法

毎回の授業コメントシート及び、最終日に行う発表内容

課題・試験に対するフィードバックの方法

最終回のプレゼンテーションの際に、総評・まとめを行う。

人間と社会特論

2022年度開講・選択必修・2単位

Advanced Study on Human and Society

担当教員 見寺貞子、森山明子、水口洋二

到達目標（目的含む）

デザインの歴史と社会的な役割を理解する。また、デザインの実践を積み重ねてきた専門家の多様な視点を学び、高度なデザインの発想方法を理解する。

授業の概要

人間と社会のシステムの中でデザインが果たしてきた役割と幅広いフィールドを理解し、デザインの歴史と社会的な役割を理解する。多様なデザイン分野で先駆的な役割を果たしてきた専門家を招き、それぞれのデザインの魅力に触れるとともに、特徴のある視点を理解する。

授業計画

- 1：広告デザイン
- 2：広告デザイン
- 3：広告デザイン
- 4：広告デザイン
- 5：広告デザイン
- 6：ファッションデザイン
- 7：ファッションデザイン
- 8：ファッションデザイン
- 9：ファッションデザイン
- 10：ファッションデザイン
- 11：近現代日本の造形
- 12：近現代日本の造形
- 13：近現代日本の造形
- 14：近現代日本の造形
- 15：近現代日本の造形

授業時間外学習

各講師は、各分野において日本を代表する専門家の一人であり、講師の著作に触れておくことが望ましい。

評価方法

レポートを評価する。

課題・試験に対するフィードバックの方法

授業内容や課題は、授業時間内で適宜質疑応答し、理解度の向上を図る。

使用テキスト

各講師の著書など

各自準備物

授業中に指示する。

その他

自分の作品を持参して、各講師の講評を受けることも可能である。

芸術と文化特論

後期・選択必修・2単位

Advanced Study on Arts and Culture

担当教員 谷口文保、小林孝亘、向田陽佳、下田展久

対面・遠隔の別

対面

履修制限等

ワークショップを実施するため、定員10名とする。履修希望者が定員を超えた場合は、美術、工芸、イラストレーション、アートマネジメントを専門とする学生を優先する。

到達目標（目的含む）

各講師の作品や専門分野の魅力を理解し、創造のプロセスやテーマについて認識を深める。各講師の作品や専門分野の概要や魅力について説明できる。現代の芸術文化の可能性や課題について論じることができる。

授業の概要

芸術と文化に直接触れる授業である。創作や伝統の実践を理解し、表現意欲を刺激する魅力的な専門家を招き、それぞれの芸術の論点や活動を学び、各自の創作活動の豊かな糧とすることを目指す。まずは担当講師の専門分野や作品について講義を行い、その理解をさらに深めるためにワークショップや制作体験を実施する。グループワークやディスカッションを適宜織り交ぜながら、体験的な深い学びを目指す。

授業計画

- 1、画家の世界（小林、谷口）
- 2、画家の世界（小林、谷口）
- 3、画家の世界（小林、谷口）
- 4、画家の世界（小林、谷口）
- 5、画家の世界（小林、谷口）
- 6、根付師の世界（向田、谷口）
- 7、根付師の世界（向田、谷口）
- 8、根付師の世界（向田、谷口）
- 9、根付師の世界（向田、谷口）
- 10、根付師の世界（向田、谷口）
- 11、アートNPOの世界（下田、谷口）
- 12、アートNPOの世界（下田、谷口）
- 13、アートNPOの世界（下田、谷口）
- 14、アートNPOの世界（下田、谷口）
- 15、アートNPOの世界（下田、谷口）

授業時間外学習

授業前に画集やwebサイトで各講師の作品や活動を予習しておく必要がある。また、各講師の専門分野について、その概要や歴史を調べておくことも重要である。授業後には、美術館やアートセンター等に出かけ、各講師の作品や活動を実際に見て、授業を振り返ることが有効である。

評価方法

レポート80%、受講態度20%で評価する。レポートを全て提出しなかった場合、または出席が10回に満たない場合はE評価となる。

課題・試験に対するフィードバックの方法

提出されたレポートにコメントを付けて返却する。

参考テキスト・URL

小林孝亘ホームページ

<https://www.takanobu-kobayashi.com/>

C.A.P.（芸術と計画会議）ホームページ

<https://www.cap-kobe.com/>

各自準備物

授業中に指示する。

実習費

授業中に指示する。

その他

自分の作品やポートフォリオを持参して、各講師に講評してもらうことも可能である。

科学と技術特論

前期・選択必修・2単位

Advanced Study on Science and Technology

担当教員 小浦久子、中村俊介、加藤友規、竹原義二

対面・遠隔の別

基本は、対面。

担当教員（非常勤）の授業構成に応じて対面・遠隔のハイブリッドの可能性もある

遠隔の場合の主なツール

Teams、Streams、KDU ポータル

到達目標（目的含む）

＜授業の目的＞

デザインとアートの創造性と構想力を豊かに支える科学的知見と技術の可能性について考える。

様々な分野での表現の実践において、かたちと科学、材料・道具・技が生み出す魅力、社会とのつながりについて、専門家の経験と新たな試みから学ぶ。

＜到達目標＞

科学的知見と伝統的な技能から最新のテクノロジーまでの技術がもたらす表現の可能性を学び、それをデザインとアートにおける創造力に展開する力をつけ、表現と社会とのつながり方をとらえることができるようになる。

授業の概要

デジタルアート、庭園の伝統技術、建築の各分野で活躍するデザイナーによる実践的講義とワークショップにより構成する。

講義とフィールドワークやワークショップを通じて、科学・技術と表現の広がりを実践的に学ぶ。

授業計画

1. オリエンテーション

科目の趣旨と構成を解説する。

2-6, 7-9, 10-14

3つのテーマで、それぞれの分野の専門家による講義とワークショップ

集中講義（金・土）で運用

15. 総括

各テーマについてのレポートの総評と科学と技術と表現についての見方を解説する。

評価方法

授業への出席及び、各テーマごとに出される3つの課題レポートの総合評価

課題・試験に対するフィードバックの方法

最終回に総評と解説を行う。

使用テキスト

授業時間内に関連する資料を配付する